

平成 27 年三重県産の農林水産物・三重県産食材を利用した加工食品に関する満足度についてのアンケート、生物多様性の保全に関するアンケート実績報告書

フードイノベーション課
みどり共生推進課

1 アンケート概要

- (1) 実施期間 平成 27 年 4 月 28 日（火）から 5 月 8 日（金）まで
- (2) 対象者数 1,221 人
- (3) 回答数 846 人
- (4) 回答率 69 %
- (5) 回答者属性

【性別】

	男性	女性
回答者数	437 人	409 人
構成比	51.7%	48.3%

【年齢別階層】

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代以上
回答者数	85 人	190 人	199 人	172 人	158 人	42 人
構成比	10.0%	22.5%	23.5%	20.3%	18.7%	5.0%

【地域別】

	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
回答者数	419 人	233 人	109 人	61 人	24 人
構成比	49.5%	27.5%	12.9%	7.2%	2.8%

2 三重県産の農林水産物・三重県産食材を利用した加工食品に関するアンケート集計結果

フードイノベーション課

Q1 生鮮物について

あなたは、三重県産の生鮮物（青果物、鮮魚、米、精肉等）に対してどのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

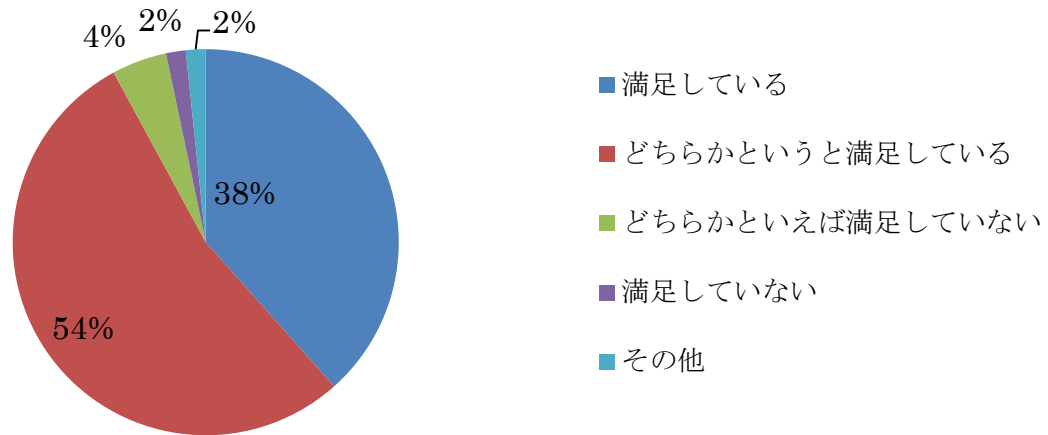


図1 三重県産生鮮物の評価結果

三重県産の生鮮物について「満足している」と回答された方は325名（38.4%）で、「どちらかという満足している」と回答された方は454名（53.7%）でした。

Q2 Q1でそう感じた理由

Q1でそう感じた理由を3つまで選んでください。

① 「満足している」、「どちらかといえば満足している」を選択された方（779人）の回答

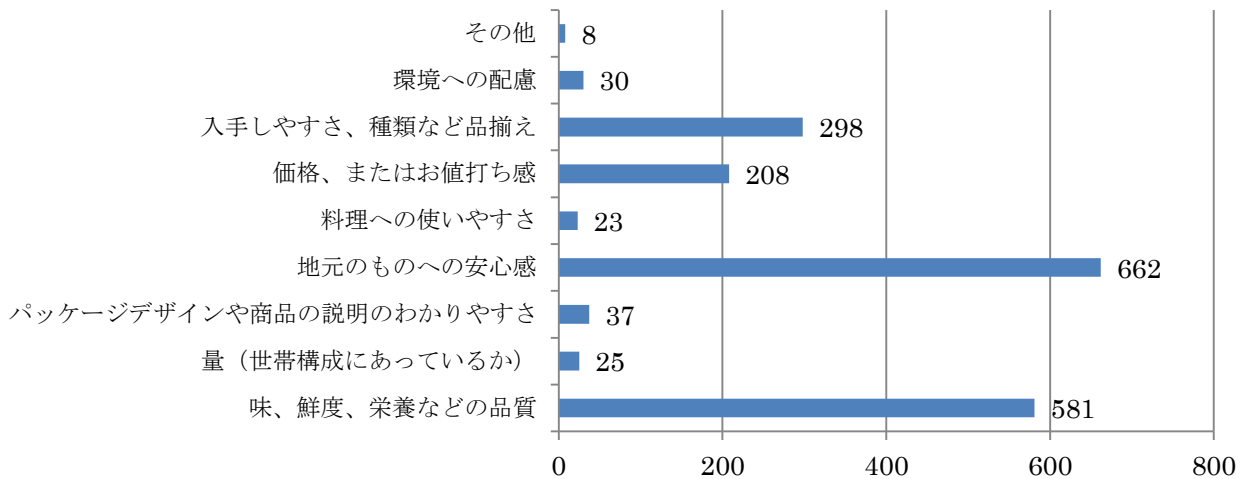
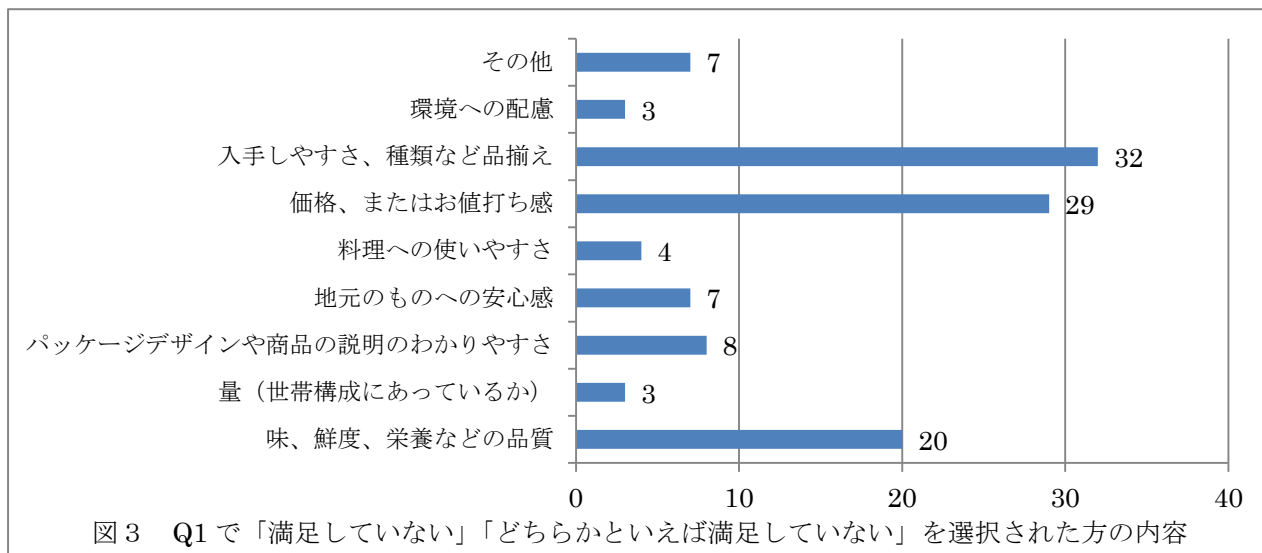


図2 Q1で「満足している」「どちらかといえば満足している」を選択された方の内容

理由として「地元のものへの安心感」を選択された方は 662 人 (85.0%)、「味、鮮度、栄養などの品質」を選択された方は 581 人 (74.6%) でした。

「その他」の回答では、「イメージが良い」、「食べ慣れている」などの意見がありました。

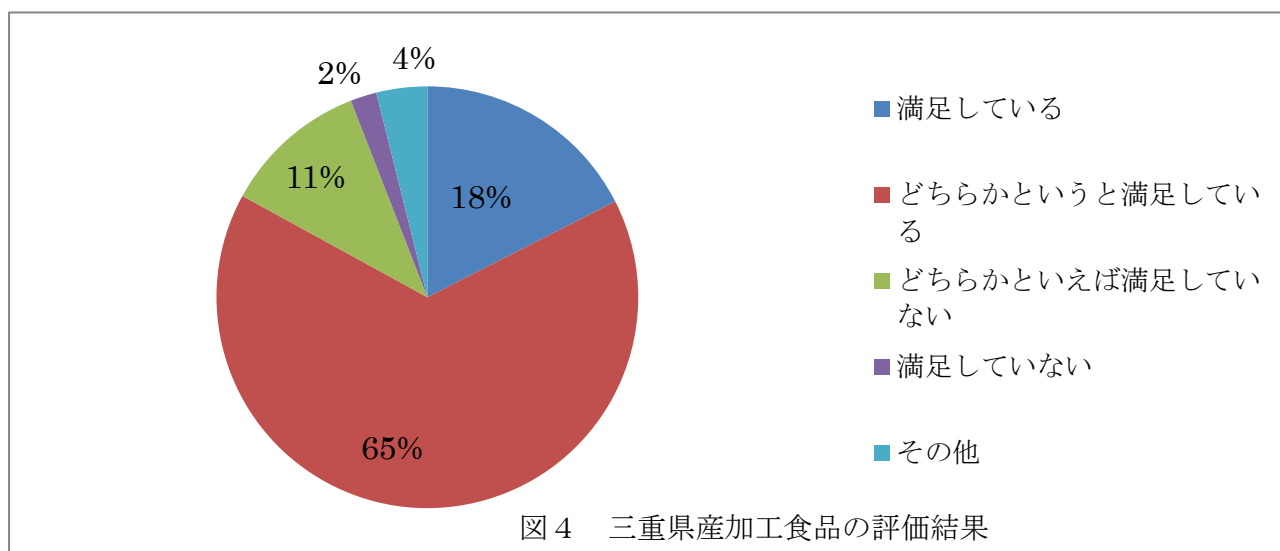
① 「満足していない」、「どちらかといえば満足していない」を選択された方 (53 人) の回答



理由として「入手しやすさ、種類など品揃え」(に対して満足していない、どちらかといえば満足していない)を選択された方は 32 人 (60.3%)、「価格、またはお値打ち感」(に対して満足していない、どちらかといえば満足していない)を選択された方は 29 人 (54.7%) でした。なお「その他」の回答では、「知名度が低い」などの意見がありました。

Q3 加工食品について

あなたは、三重県産の加工食品に対してどのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

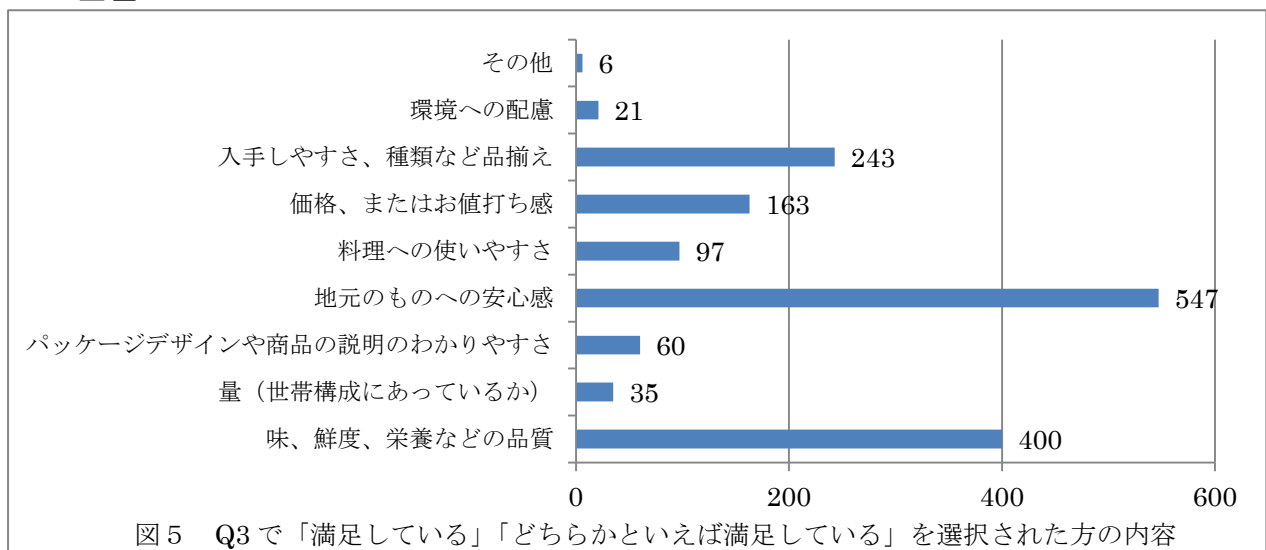


三重県産の加工食品について「満足している」と回答された方は 148 名（17.5%）で、「どちらかといえば満足している」と回答された方は 554 名（65.5%）でした。

Q4 Q3でそう感じた理由

Q3でそう感じた理由を3つまで選んでください。

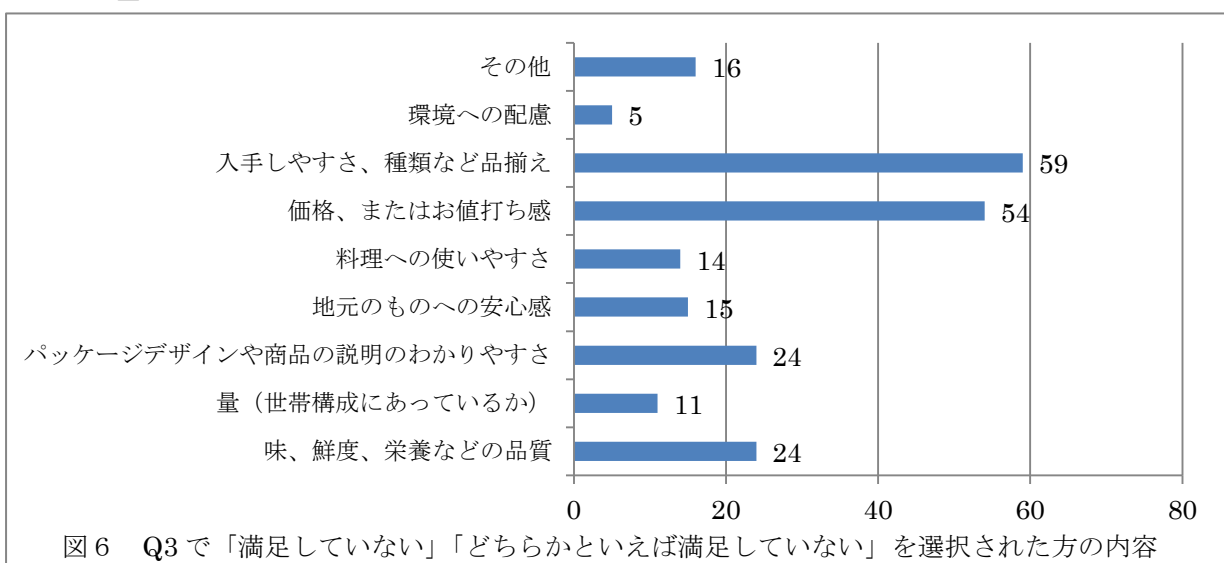
① 「満足している」、「どちらかといえば満足している」を選択された方（702 人）の回答



理由として「地元のものへの安心感」を選択された方は 547 人（77.2%）、「味、鮮度、栄養などの品質」を選択された方は 400 人（57.0%）でした。

「その他」の回答では、「食べ慣れている」「手作り感」などの意見がありました。

② 「満足していない」、「どちらかといえば満足していない」を選択された方（111 人）の回答



理由として「入手しやすさ、種類など品揃え」（に対して満足していない、どちらかと言えば満足していない）を選択された方は 59 人（53.％）、「価格、またはお値打ち感」（に対して満足していない、どちらかと言えば満足していない）を選択された方は 29 人（26.1％）でした。なお「その他」の回答では、「イメージが湧かない」「知名度が低い」などの意見がありました。

Q5 三重県産品の効果的な PR について（自由記載）

Q5 では「三重県産品を PR するのに効果的と思われる方法や取組」に関して、多数の自由記載意見をいただきました。

集計した結果、意見の内容と割合は、下の図7のとおりで「情報発信」「売り場（スーパーの売り場、直売所）の増加、工夫」「その他」の順でした。

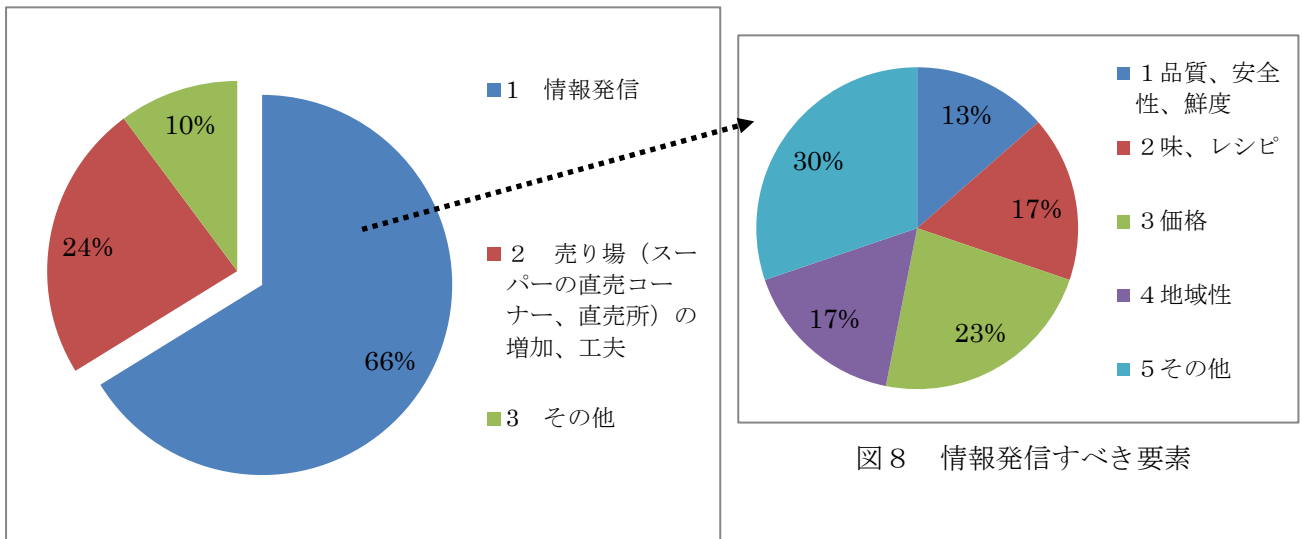


図7 三重県産品の効果的なPRについて (N=216)

このうち「情報発信」に関していただいた意見の内訳を図8に示しました。

最も多かったのは「価格」に関係する内容で、「県産品は割高な感じがする」「割高なら、品質、安全性、鮮度など三重県産品の良いところをもっと周知すべき」「価格も品質も他県産と比較できるようにしてほしい」などの意見をいただきました。

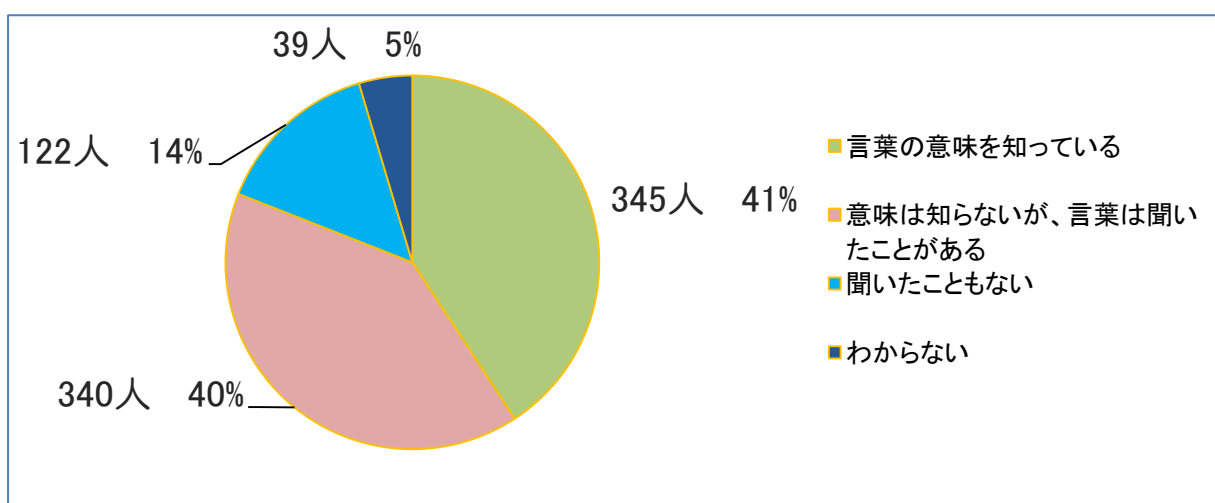
また、「味、レシピ」「地域」に関しても多く意見をいただきました。「味、レシピ」に関しては、「美味しさがわかるようにしてほしい」「味の違いや料理の方法などを周知すべき」などの意見が、また「地域性」に関しては、「三重県産だけでなく、市町名や地区名など細かい地名まで入れた方が良い」「地名まで入っていた方が安心する」などの意見がありました。

3 生物多様性の保全に関するアンケート集計結果

みどり共生推進課

Q6 「生物多様性」という言葉について

「生物多様性」という言葉をご存じでしたか。あてはまるものを1つ選んでください。



集計は上表のとおりです。同じ選択肢を用いて平成26年度に行われた内閣府の「環境問題に関する世論調査」では、「言葉の意味を知っている」「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」の2項目を「認知している」と評価しており、今回の調査結果で同様の評価を行うと、その合計は81%となります。

これは、内閣府調査結果の46.4%に対してかなり大きな数字であり、県民の皆様の認知度の高さが伺えるものです。

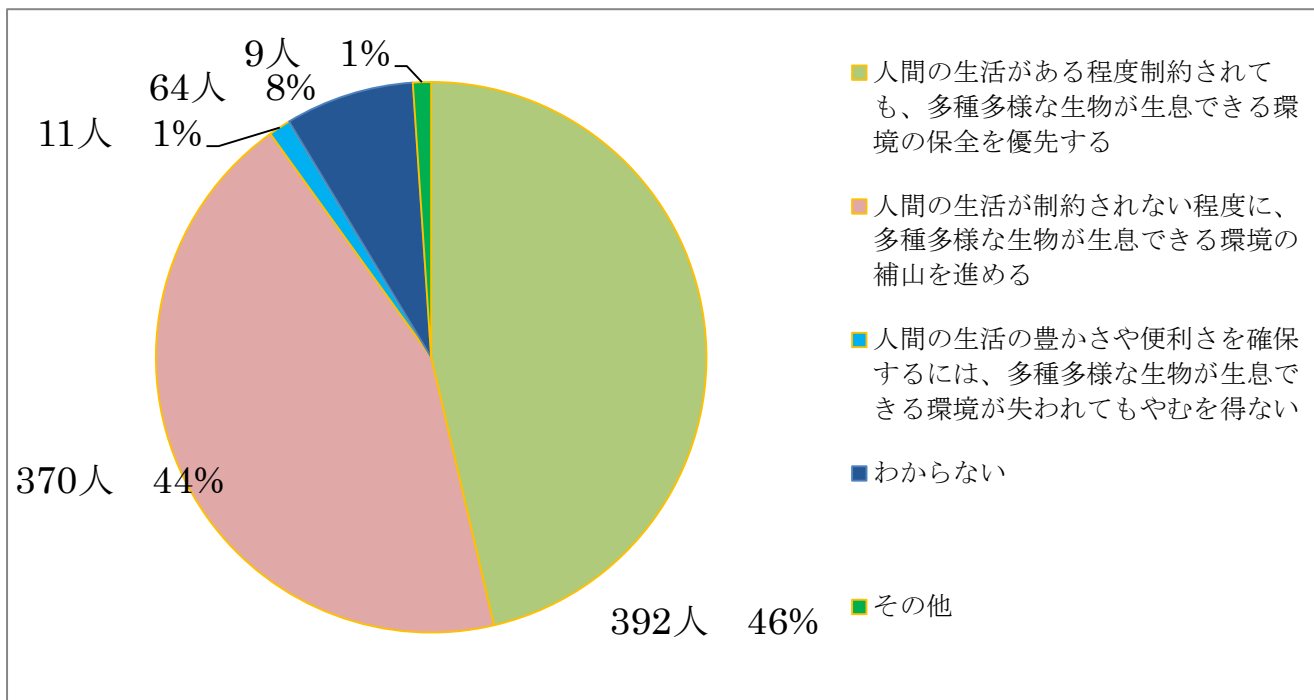
しかし、平成23年2月に行ったe-モニター調査では、同様の評価を行うとその合計は90%となっており、27年度の評価結果は22年度に比べて落ちている（22年度比90%）と言えます。

この降下傾向は内閣府の「環境問題に関する世論調査」でも同様で、平成26年度の評価結果は24年度に比べて落ちています。（24年度比83%）

これら一律の減率の原因については、平成17年の愛知万博開催から平成22年のCOP10の開催にかけての期間の、「生物多様性という概念」の社会的な高揚、活性化期間が終わりを迎え、市民の中で風化し始めているという見方がなされており、いま、あらためて「生物多様性」の普及啓発のあり方が問われるものとなっています。

Q7 生物多様性の保全のための取組について

「生物多様性」の保全のため、地球上のさまざまな生物やそれらが生息できる環境を守る取り組みが進められていますが、あなたは、このことについてどのようにお考えでしょうか。あてはまるものを1つ選んでください。



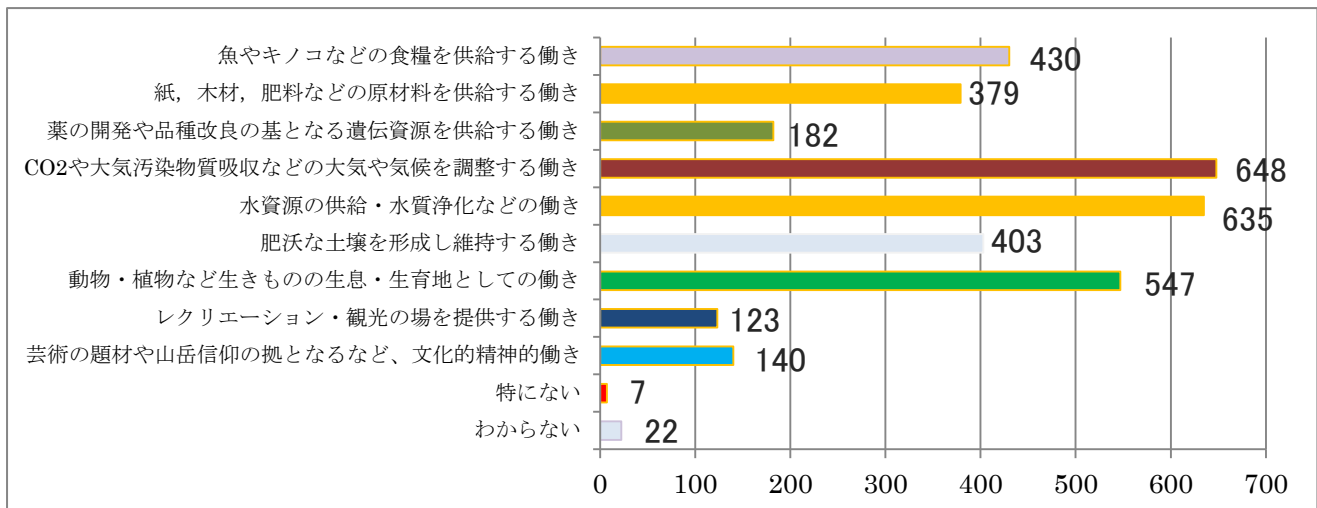
「人間生活の利便性」と「環境の保全」のどちらを優先したいか？ということ、を、「どちらか形式」で問うた設問で、結果は、大きく2分するものとなりました。

生活に便利な施設を建設するための開発を優先するか、自然の豊かさを優先するか。便利な生活を知ってしまった我々は「どちらが大切か？」と問われれば、「どちらも大切だ」と答えてしまいそうです。選択肢で「その他」を選ばれた9名のうち5名は、自由記載欄で「両立」もしくは「ケースバイケース」というご提案をいただきました。

これらの結果を見ると、現在の生物多様性国家戦略は「保護と利用」という言葉を理念の1つとして進められていますが、この考え方は三重県民の平均的な思想と、そう離れたものではないという事が言えると思います。

Q8 自然の働きについてあなたが重要だと考えること

私たちは、自然のさまざまな恵みをいただきながら、その恵みに感謝し、自然と共に生きる循環型社会を作り上げてきました。次に上げる選択肢の中から、自然の働きについて重要だとと思われるものについてすべて選んでください。

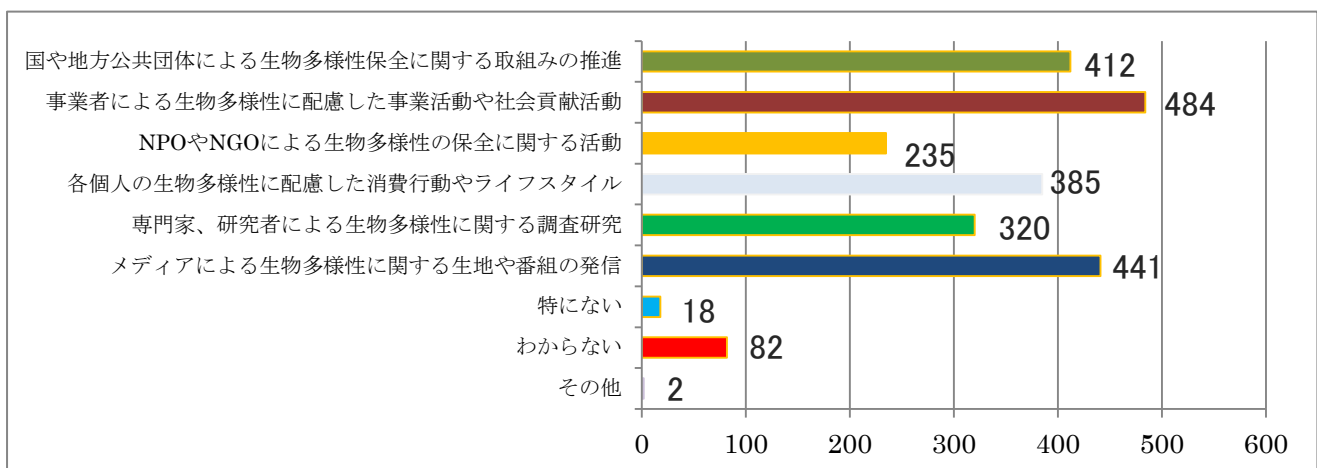


「生物多様性」は、必ずしもすべての自然の恵みを表現した言葉ではありませんが、これらの中で重要なものと考えて頂いているものを問う設問の上位3項目は、「大気」、「水」、「生きものの生息環境」となりました。自然の働きについて、我々の力が及ばないもの、規模の大きなもの、という、大きな視点から意識されていることが分かります。

しかし、一見、我々が及ばないと感じるような自然環境に起こっている大きな変化も、私たち一人一人の行動が積み重なって起こっているものも多くあります。このことを逆に考えると、一人一人の努力が自然環境の保全に役に立つという可能性を示しています。みんなの努力と力で、自然を守っていききたいですね。

Q9 生物多様性の保全についてあなたが重要だと考えること

生物多様性の保全のためには、国、地方公共団体に加えて、事業者、NPO、NGOなどの民間の団体や国民などがそれぞれの立場から取り組むことが必要ですが、次に上げる選択肢の中から、生物多様性の保全のために重要だと考えるものについてすべて選んでください。



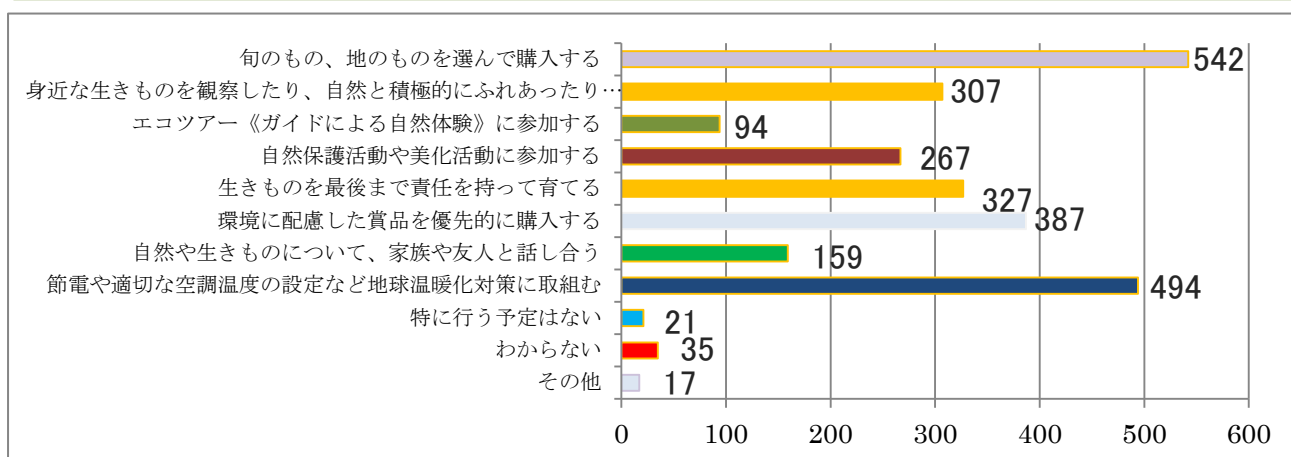
生物多様性の保全を進めるにあたって、皆さんに大きく期待されているのは、事業者、メディア、行政団体、個人、専門家の順となっています。生物多様性の保全に関しては「各主体が、それぞれ出来ることをできるだけやって行く」という事が大切とされていますが、この点に関しては、我々行政の感覚と県民感覚の距離は、そう遠くないという事が確認できたと思います。県としても引き続き具体的な施策を広く展開して行くことが求められています。

Q10 では、Q9 うち「国や地方公共団体による生物多様性保全に関する取組みの推進」を選択した方に対し、自由記載で「期待する具体的内容」を記載いただいておりますが、実に346名の方から様々なアプローチのご回答を頂き、スペースの関係上ここですべてを照会することが出来ませんが、これらのご意見についてはそのすべてをリスト化し、現在改訂を進めている「みえ生物多様性推進プラン」の検討委員会の委員全員でシェアしており、審議の中で参考にさせていただいております。

代表的なご意見の例としては、「生物多様性の概念説明や、自然環境に関する啓蒙・教育が不足している」「伝わらなければ何もしていないのと同じ」という、普及啓発や広報に関するもの、「人間は快適に生活することを求める傾向にあるので、生物に必要な環境を守るためには国や地方公共団体による規制が必要」「絶滅危惧種の保全区域を制定して強く管理する」などの、過度な開発から自然環境を守るために一定の規制強化を求めるもの、「専門家の色々な意見を公平に公表すること」などの、中立性を期待するものなどがありました。

Q11 生物多様性の保全に配慮したライフスタイルについて

あなたは、生物多様性の保全に配慮したライフスタイルとして、これからどのようなことを行いたいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。



生物多様性の保全を進めるには、行政や事業者はもちろん、私たち一人一人の取組がとても重要です。この設問では、皆さんがこれからどのような方向で取り組んでいきたいかをお伺いしました。

回答数の第1位は「旬のもの、地のものを選んで購入する」、第2位は「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む」でした。

あらためて「ちょっとずつを、みんなでやる」、という事が、とても大切なのだということを実感させられる結果となりました。

「その他」のご回答の中には「既に取り組んでいる」という方や、「鳥獣外との境目を見極める」といった実践的な回答もありました。